



スマートフォン・タブレットアプリケーション AR高槻城

バーチャルで
高槻城と城下を再現

スマートフォンやタブレットを目の前にかざすと、画面に高槻城や城下の街並みが映し出されます。江戸時代にタイムスリップしてみませんか？

「AR高槻城」は、大阪工業大学【吉川 眞 教授／都市デザイン工学科】の協力を得て、GIS(空間情報システム)やGPS(汎 地球測位システム)とCG(コンピュータグラフィックス)などの技術をAR (Augmented Reality: 拡張現実感)に応用して、江戸時代の高槻城と城下町を再現したスマートフォンアプリです。

【お持ちのスマートフォンや タブレット端末にダウンロード】

iOS版は「App Store」で、Android版は「GooglePlay」からダウンロードしてご利用ください。「AR高槻城」で検索できます。

※アプリケーションは無料。別途、通信料が必要です。Wi-Fi環境でのダウンロードをおすすめします。一部の公衆Wi-Fiはしろあと歴史館にあります。
※一部非対応の端末やタブレットがあります。



iOS用



Android用



歴史民俗資料館前では、手前に弁財天郭、遠方に高槻城天守をみることができます。

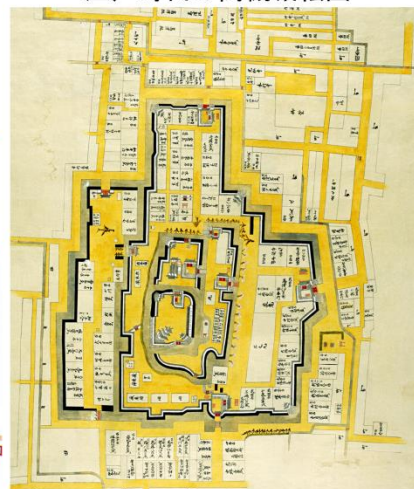


しろあと歴史館前では、三ノ丸の武家屋敷と桜の馬場をみることができます。

現地でARを体感できるポイント★



江戸時代の高槻城絵図



高槻城は、戦国時代の入江氏の城館に始まり、永禄12年(1569)に和田惟政が城としての基礎を固め、天正元年(1573)に高山右近が町屋を城内にとりこんで堅固な城郭を築きました。
また右近は熱心なキリスト教で、キリスト教を手厚く保護し、天主教会堂を拠点に布教をすすめたと伝えられています。
江戸時代、北摂唯一の城郭として重要な役割を果たした高槻城。大坂夏の陣のち元和3年(1617)、江戸幕府による直営改修工事が行われ、慶安2年(1649)には永井直清が入城、以後13代、幕末まで高槻藩3万6千石の譜代大名永井家の居城となります。
明治7年(1874)に京阪間鉄道建設のため石垣が破却され、用材として使われました。